

経営理念		〈経営目標〉一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈保育目標〉すくすく おれんじ げんきなこ 〈子ども像〉・元気に遊べる子ども・自分の思いをすなおに出せる子ども・優しく心豊かな子ども・意欲のある子ども 〈保育所像〉・子どもの笑顔が輝く保育所・子どもの育ちを支える保育所・保護者や地域から信頼される保育所 ・幼稚園と連携して子どもの育ちを支える保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切にする保育士・意欲を育む環境を考える保育士・チームワークを大切にする保育士・保護者により良い協力関係を築く保育士・専門性の向上に努める保育士					
中期経営目標		短期経営目標 （評価項目）	自 己 評 価		保育所関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
職員の育成・資質向上や運営	職務分担が適切に機能し、子ども達のために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	職員が報告・連絡相談に努め、他の職員と互いの良さを認め合い、協力して保育にあたる。	保育はチームで行うものと考え、毎日保育について話し合う場をもつことで情報共有ができ保育に生かす事ができた。連携を確実にするために終礼や伝達ノート、掲示板などを活用したが、行事等で変更があった場合の周知ができていなかった。全職員で共有を徹底できるような工夫が課題である。	B	勤務時間の違う４５名の職員が終礼や伝達ノート、掲示板を活用し工夫して共有されていることや保育のことや子どもについて話し合いがされ、互いに協力し合う組織運営を努力していることが見られる。そのことが保育にも生かされている。	B	報告・連絡・相談を早朝から延長保育まで確実に行えるように体制を整え、周知の工夫を行う。明日の保育につなげるように、日々の保育を振り返る時間を継続してもつ。
		保育所の安全計画や防災マニュアルを見直し、安全対策を行う	避難訓練や不審者対応、引き渡し、伝言ダイヤル、保幼合同訓練など計画的に実施し、延長保育の時間帯でも実施することができた。実施案を基に検討し職員間で共有し行い実施後は、振り返りを行い職員の気づきから、次の訓練に生かせるように想定を提案し改善につなげてきた。日頃から防災意識をもち、子どもの安全確保、様々な場面を想定してどのような行動をとるのか、また保育室からの避難誘導や頭巾やスリッパの置き場所等職員間で話し合いを行ってきたが、想定外のことが起こった時、状況に応じて臨機応変に行動することはまだ十分でなかった。	B	昨年度の反省をもとにいろいろな想定や時間で訓練を行ったり、動画などの視覚を取り入れ短時間の職員にも周知するなど訓練の仕方や連携の方法を工夫されている。また、職員間で日頃から避難誘導や環境等について職員間で話がでているなど前向きな姿勢が見られ評価される。	B	次年度も職員の異動はあると思うので、通信機器の利用や消火設備の取り扱いを徹底していく。色々な想定や時間での訓練を継続し、反省を取り入れ計画を立てていく。また、保護者アンケートからも防災意識への関心が高いことが伺えるので、保護者や地域に対しての発信の工夫や参加についても考えていく。
保育・教育活動の充実	保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育活動を展開し、感性が育つための環境構成を探索する。	子どもの興味関心を探り、主体的に遊びに関われる環境づくりを行う。	季節や子ども達の発達や興味関心に応じて手指や体を動かす遊びなど玩具、用具を整えたり、研修で学んだ事を取り入れたりして環境を整えてきた。また、互いに保育室を見合い、ままごと、ごっこスペースや構成遊びスペースなどのコーナーについて話し合うなど子どもが主体的な遊びが保障されるようなコーナー作りや子どもが興味関心をもって遊びにかかわろうとする教材について話し合ってきた。保育者と子どもの思いにズレがあったり、タイミングが合わなかったりしたこともあったが、保育者が設定した環境や遊びを繰り返し遊び楽しむ子どもが70%以上見られ、新しい発見があったり、楽しんで手指、体を動かしたりする姿が見られた。遊具や用具、遊びなどの教材研究には、まだ課題がある。	B	子どもの姿や発達から、工夫した遊びや環境づくりがされている。年齢や発達に応じた教材研究もされている。保護者としては、最大限にされていて満足している。	A	今後も子どもの興味関心や発達を捉え、遊びや環境の準備をしていけるように、研修等も取り入れながら取り組んでいく。計画的に教材研究を行い、園全体で共有していく。
		子どもの育ちがにつながる保幼小連携教育を共有する。	幼稚園とカリキュラム会を行い、０歳～５歳児の子どもの実態から発達や学びを共通理解することができ、５歳児までの発達を見通し０歳～３歳の発達に必要な経験を再確認することができた。中学校区の交流では、連携教育への意識が高まり、連携に関する通信に目を通したり、小学校の４年生の授業研修に参加したりして話題にする職員も増えてきた。幼稚園との交流は計画を立て週案に取り入れ、見通しをもって実施することができた。小学校６年生との交流は、子どもの育ち等を伝える事が不十分だった。また、乳児組も楽しめる交流内容を工夫していきたい。	B	できる範囲でよくやっていると感じる。幼稚園には、積極的に働きかけをしてくれていた。保護者としては、子どもからもよく交流での話が聞かれていた。今後も交流活動において、育ちがつながるように担当間の話し合いが必要と思われる。香我美地区の良さである、保幼小中の立地を活かした連携を今後も継続して取り組んでほしい。	A	交流（事前・事後も含め）やカリキュラム会を年間計画に位置づける。幼稚園とのカリキュラム会は継続で行い、次年度は生活面や遊びについて年齢ごとの話ができるような体制を整え、園全体で共有できる工夫をしていく。
		一人一人の子どもの発達に応じた、経験を重ねていく保育を行う。	ねらいや計画性をもった保育ができるよう意識して指導案を作成し、保育を実践、日々の振り返りを行ってきた。担任間でも子どもの姿や家庭のことなど情報を共有し、具体的にどのような援助をしていくのか、やってみてどうだったのかなど話し合い、同じ関わりができるよう援助や配慮内容など翌日の保育に生かしている。評価・反省をしカリキュラム（月案・週案）の改善につなげることもできた。	B	月案・週案など細かな計画を立て、それを基に振り返りをし、改善され、保育に生かされている。クラスや学年間の話し合いもよくされていると思う。発達を捉え、発達に応じた経験の積み重ねから次のねらいを設定していると思うが、発達の捉えに課題を感じているようなので今後も継続して取り組んでほしい。	B	子ども理解や発達について、研修やカリキュラム会等で学びあいながら、全職員で共有していく。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	保育の意図や子どもの育ちを保護者や地域に伝える。	感染症拡大で中止になったこともあったが、地域の方との交流の計画を立て、園庭の花植えやじゃがいも植えやさつまいも掘りを一緒にしたり、七夕集会や生活発表会にも来ていただき取り組みを知ってもらったり、子どもの様子を見ていただくことができ、多様な方と触れ合う経験につながった。地域には、保育所だよりや毎月各クラスが作った作品とともに取り組んできた様子を香我美支所や山北郵便局に展示し子ども達の様子を伝えてきたが、今後も発信の工夫が必要である。保護者には、３歳児の参観日で地域の自然物探しを親子で行い保護者にも地域の事を知る機会を設けたり、地域の伝承文化である獅子舞や棒踊りについて便りで知らせた。保育所での子どもの様子や育ちは、連絡帳やクラスだより、ドキュメンテーション、動画などで知らせたり、参観日では、保護者間の交流を取り入れたりしてきたことで保護者からの満足度は高くなっている。家庭での子どもの姿や悩みも話してくれる保護者も増えてきたが、保護者アンケートから話ができにくいと思っている保護者が数名いた。	B	感染症拡大があり、十分な活動は難しかったと思われるが、地域との交流や地域への発信はよくできていると感じる。香我美支所へのおたよりや年齢ごとの作品展示をよく見ている。行事や園での様子を連絡帳やクラスだより、ドキュメンテーション、動画などで子どもの様子や保育で大切にしていることなどがよくわかり、成長が感じられた。	A	連絡帳やお便り・ドキュメンテーションなどは、子どもの育ちや保育で大切にしていることなどを意識して発信していく。また、参観日や懇談会の内容をより一層充実させていく。地域の方との関りや自然などを行事や保育活動に取り入れ、様々な人との関りや心動かすような豊かな体験ができるように計画的に実施する。保護者一人一人の思いに寄り添った、対応に努力していく。
		基本的な生活習慣の定着を目指し、保護者と連携しながら取り組む。	手洗いが楽しく身につくように、手洗いの仕方を掲示したり感染症について伝えたり、歌遊びを取り入れたり、紙芝居や、看護師による手洗いの指導、担任が率先して手洗いを行うなど年齢に応じた環境づくりや援助を行った。寒くなり戸外から保育室に入る時に手洗いを忘れてしまうこともあるが、保育者に声をかけられたり、自分から手洗いをする子どもが75%以上となってきた。	B	小学校では、年３回学期の初めに生活面について調査を行っている。その中の朝食については９１～９３％が食べている。保育所・幼稚園での積み上げがあっでできていると感じている。手洗いの習慣は健康の為、大切な事なので家庭と連携して継続して取り組んでほしい。	B	低年齢のうちから生活の仕方を身につけていけるような関わりや環境の工夫等を継続して行い習慣につなげていく。また、保護者への啓発と共に家庭と連携をとり、定着していけるように取り組んでいく。